

## 第5回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表

衛星放送事業者を対象とした市場の予測に関するアンケート  
楽観論・市場拡大基調だが、厳しさ増すチャンネルも

多チャンネル放送研究所(所長:林尚樹)は、第5回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が(社)衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査しているものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、デジタル放送への完全移行が予定されている『2011年時点』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを訊ねています。

この結果、衛星放送事業者の加入者数、視聴率収入についての見通しは、現状や1年後の厳しい状況から、11年に向けて増えていくのではという期待感を反映したものになりました。

広告、事業収入についても、11年に向けて改善されるのではという傾向が明らかになりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も同調査を定期的実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

### ■調査結果の概要

#### 1. 自社チャンネルの加入者は『2011年時点』に向けて「増加」が優勢に。『1年後』では「横ばい」という見通しも

自社チャンネルの加入者予測の全般的な動向について見ると、いずれの時点でも、最も多くの回答があったのは「増加傾向」である。

『現状』『1年後』では大幅増を含めた「増加」と見るチャンネルと、「横ばい」や「減少」との見方がほぼ半数を占めているが、『2011年時点』では増加と答えるチャンネルが優勢になる。

各時点でみていくと、まず『現状』では「増加傾向」(48.6%)、「減少傾向」(22.9%)、「横ばい」(21.4%)と続く構成になった。『1年後』では「横ばい」が25.7%に増加し、「減少」が落ちる。次いで『2011年時点』では「増加」が過半数を越え54.3%となり、「横ばい」「減少」とも下がっていく。ただし、「横ばい」と「減少」を合わせると35%程度を占める。

#### 2. 多チャンネル放送全体での加入者は、現状では停滞気味。チャンネル間の競争は激化するが、将来的には市場全体が拡大するとの見方。

『現状』では、回答数は「横ばい」(47.8%)、「増加傾向」(37.7%)、「減少傾向」(13.0%)の順番になった。『1年後』は「増加傾向」が44.9%とトップになり、『2011年時点』ではさらに「増加傾向」が増え66.7%にまでなる。市場全体としては『現状』『1年後』で市場全体の加入者は、停滞気味であるものの、将来は再び増加基調に戻ると見る事業者が多い。

また自社チャンネルの加入者動向では『現状』『1年後』で「増加」が多かったことを考えると、現

状市場全体が停滞気味の中で、自社の加入者増加を目指してチャンネル間の競争が一時的に激しくなるものの、将来的には全体のパイが増加することでチャンネル加入者も全般的に増加していくとみているように思われる。

### 3. 自社の視聴料収入の全体としては楽観的だが、一部、減収を予想する事業者も。

自社チャンネルの視聴料収入の全体動向は、『現状』、『1年後』、『2011年時点』を通して「増加傾向」が最も多く、収入増を予測している事業者が多いことがわかる。特に11年に向けて視聴料収入増を期待している事業者が過半数となった。また、『1年後』『2011年時点』では4.5%だが「大幅増」とみる事業者もいる。

しかし「減少傾向」と回答する事業者が『現状』では3割、『1年後』ではほぼ4分の1の25.8%、『2011年時点』でも18.6%を占めており、厳しい見方をする事業者も少なくない。

### 4. 広告収入では『現状』『1年後』では「横ばい」と見る事業者が多い。一方で『2011年時点』に向けて期待感も。

自社チャンネルの広告収入の予測では、「横ばい」とみる回答が『現状』(38.6%)、『1年後』(40.0%)、『2011年時点』(40.0%)とも最も多い。

一方で、「増加」と見る事業者は『現状』(22.9%)、『1年後』(30.0%)、『2011年時点』(37.1%)と2011年に向けて増えていき、「減少」は『現状』(20.0%)、『1年後』(15.7%)、『2011年時点』(11.4%)と減っていく。将来に向けて広告収入増への期待が伺える結果となっている。なお無回答も1割あるが、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることに留意されたい。

### 5. その他事業収入は1年後には増加

自社チャンネルのその他事業収入では、『現状』では「横ばい」がもっとも多く47.1%、次いで「増加」が27.1%と続く。『1年後』では「増加」が40.0%と最も多くなり、「横ばい」は35.7%に落ちる。「増加傾向」は、『2011年時点』ではさらに増えて45.7%となるが、「横ばい」は31.4%まで減少する。本項目でも「無回答」が多い点に注意が必要である。

## ■調査の概要について

- 1.調査時期 2009年12月
- 2.調査対象 衛星放送協会正会員社のCS有料チャンネル(97チャンネル)
- 3.調査方法 郵送法
- 4.回答回収数 66チャンネル
- 5.回答回収率 68%

## ■調査結果詳細

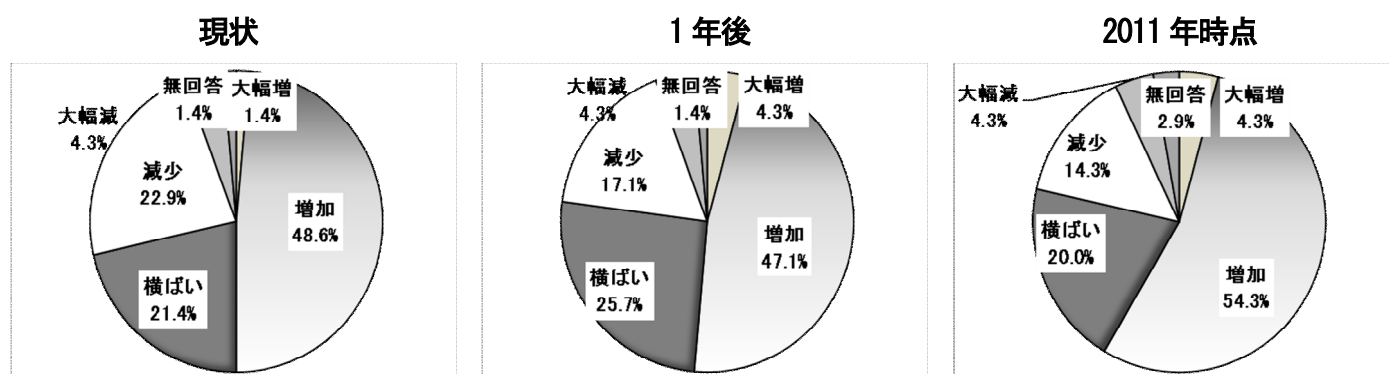
### 1. 自社チャンネルの加入者動向予測

自社チャンネルの加入者予測の全般的な動向について見ると、いずれの時点でも、最も多くの回答があったのは「増加傾向」である。

『現状』『1年後』では大幅増を含めた「増加」と見るチャンネルと、「横ばい」や「減少」との見方がほぼ半数を占めているが、『2011年時点』では増加と答えるチャンネルが優勢になる。

各時点でみていくと、まず『現状』では「増加傾向」(48.6%)、「減少傾向」(22.9%)、「横ばい」(21.4%)と

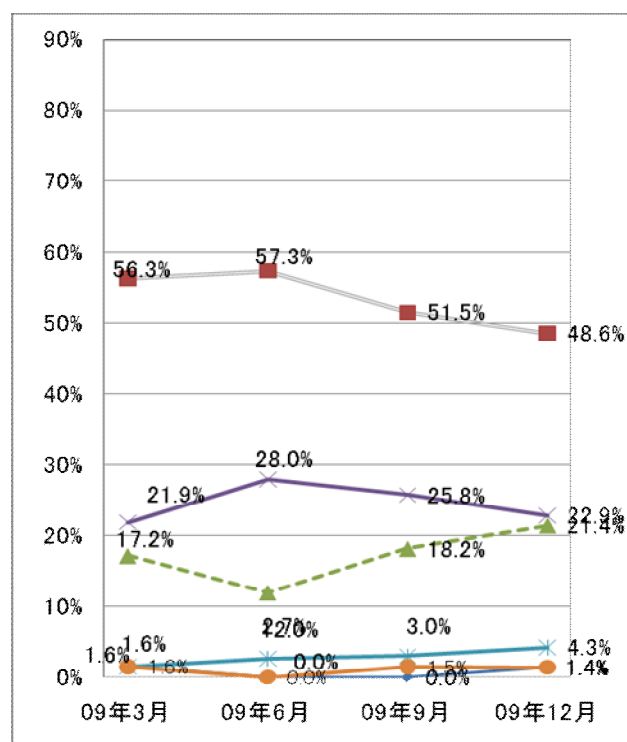
続く構成になった。『1年後』では「横ばい」が25.7%に増加し、「減少」が落ちる。次いで『2011年時点』では「増加」が過半数を越え54.3%となり、「横ばい」「減少」とも下がっていく。ただし、「横ばい」と「減少」を合わせると35%程度を占める。



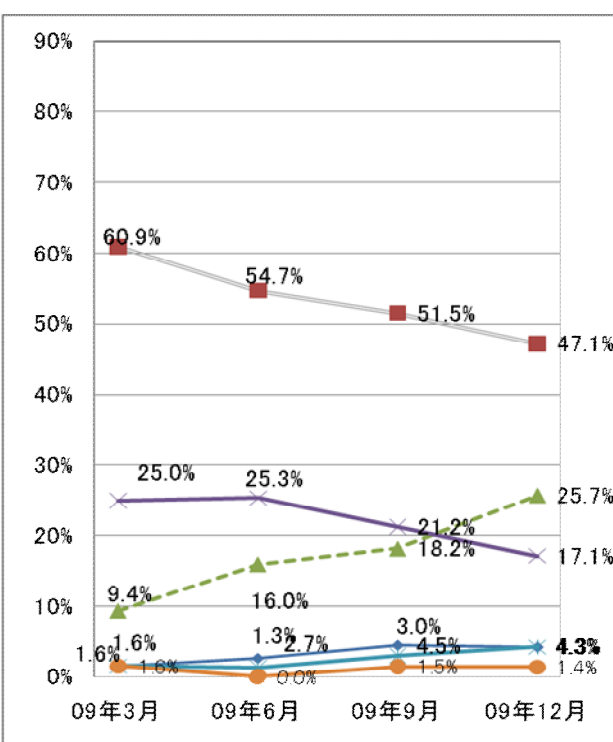
## 2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

自社チャンネルの加入者動向を、前回調査に比べると、『現状』では「増加傾向」と「減少傾向」がやや減り、「横ばい」が3ポイントほど増えた。「大幅増」も微増。『1年後』でも「増加」「減少」が微減、「横ばい」が7.5ポイントほど増えた。『2011年時点』では「増加」が3ポイントほど伸ばし「横ばい」「減少」が微減になり、自社加入者予測では11年に向けて楽観的な期待が強まっていることがわかる。

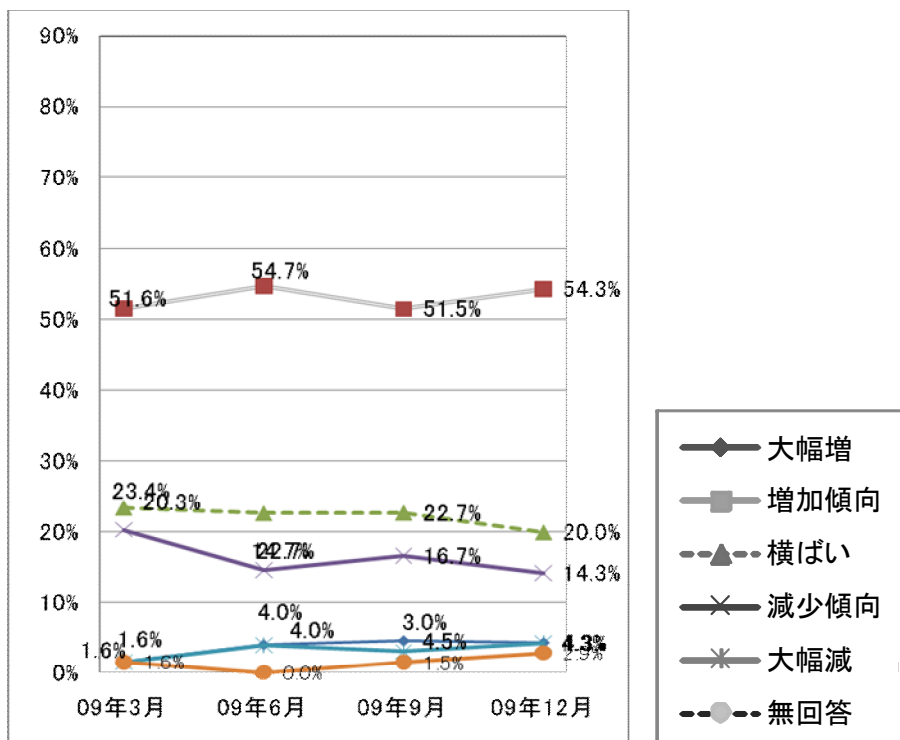
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



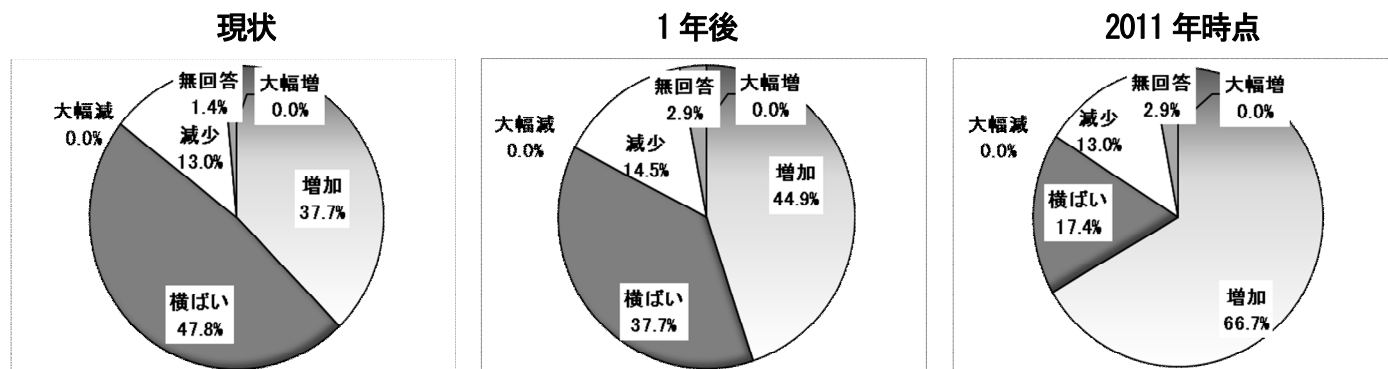
## 自社加入者数予測(2011 年) —前回調査との比較



### 3.多チャンネル放送全体の加入者動向

『現状』では、回答数は「横ばい」(47.8%)、「増加傾向」(37.7%)、「減少傾向」(13.0%)の順番になった。『1年後』は「増加傾向」が44.9%とトップになり、『2011 年時点』ではさらに「増加傾向」が増え66.7%にまでなる。市場全体としては『現状』『1年後』で市場全体の加入者は、停滞気味であるものの、将来は再び増加基調に戻ると見る事業者が多い。

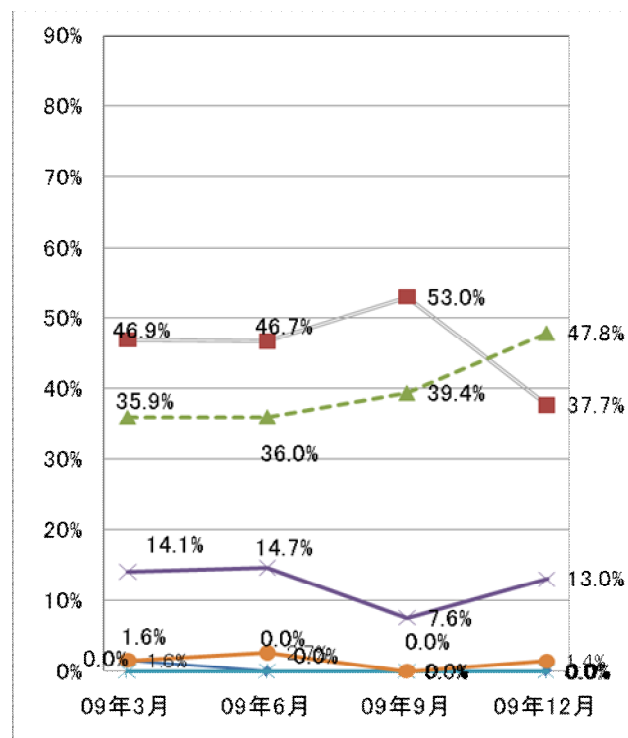
また自社チャンネルの加入者動向では『現状』『1年後』で「増加」が多かったことを考えると、現状市場全体が停滞気味の中で、自社の加入者増加を目指してチャンネル間の競争が一時的に激しくなるものの、将来的には全体のパイが増加することでチャンネル加入者も全般的に増加していくとみているように思われる。



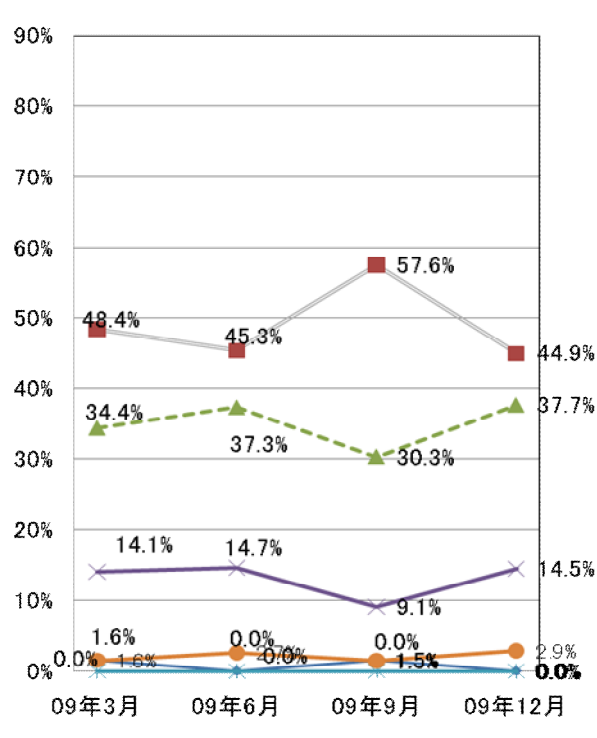
#### 4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

多マーケット全体の加入者予測を前回調査と比べると、『現状』では、「増加傾向」が大きく落とし、「横ばい」「減少」が増えた。『1年後』でも同じ傾向だが『2011年時点』では逆に「増加」が大幅に伸ばして、「横ばい」が半分まで落とした。このことから現状の停滞感は強まっているものの、将来に対する期待がさらに高まっていることがわかる

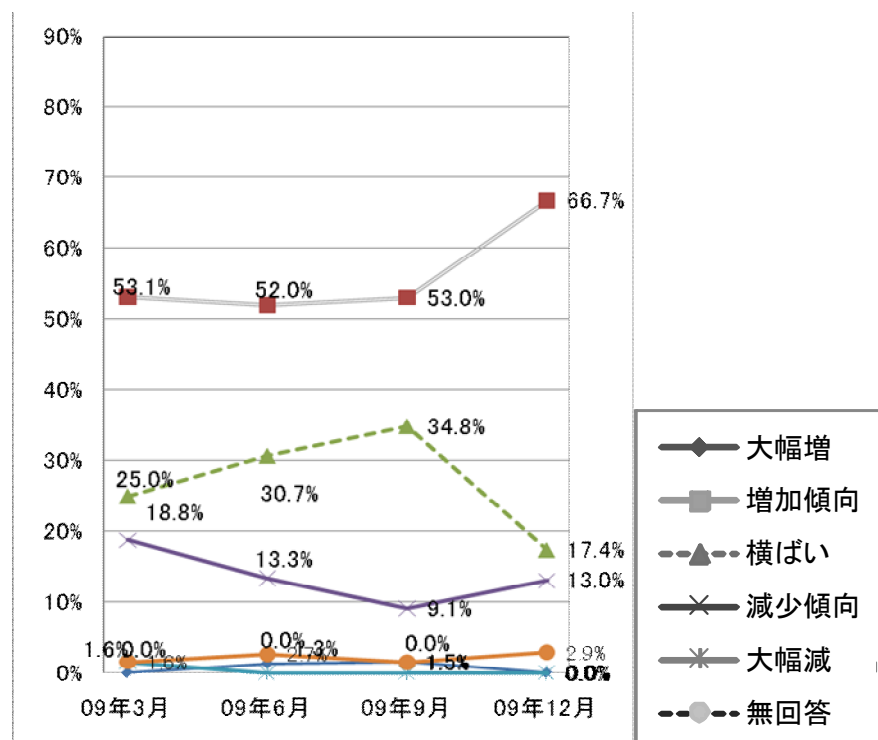
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



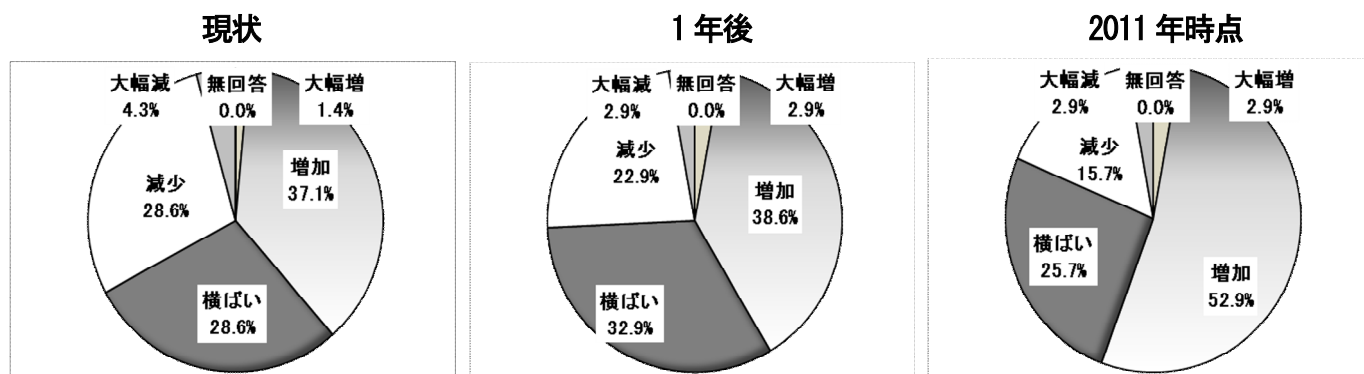
市場全体加入者数予測(2011年)―前回調査との比較



## 5 視聴料収入予測

自社チャンネルの視聴料収入の全体動向は、『現状』、『1年後』、『2011年時点』を通して「増加傾向」が最も多く、収入増を予測している事業者が多いことがわかる。特に11年に向けて視聴料収入増を期待している事業者が過半数となった。また、『1年後』『2011年時点』では4.5%だが「大幅増」とみる事業者もいる。

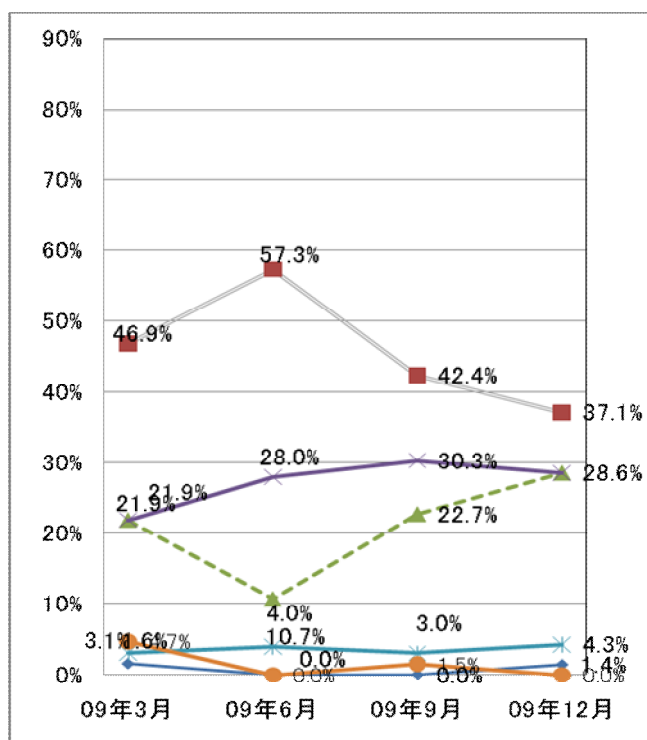
しかし「減少傾向」と回答する事業者が『現状』では3割、『1年後』ではほぼ4分の1の25.8%、『2011年時点』でも18.6%を占めており、厳しい見方をする事業者も少なくない。



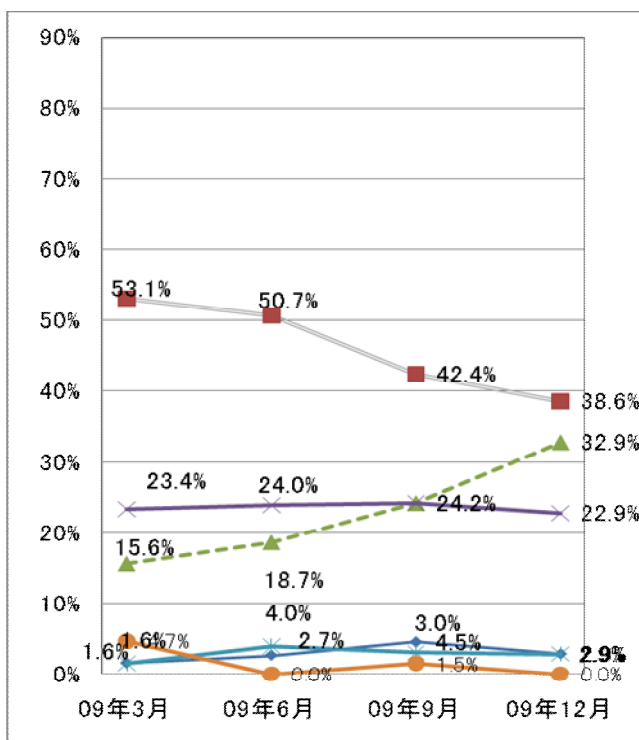
## 6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

『現状』『1年後』では、「増加」が最も多いが、前回調査に比べ大幅にさげており、反面「横ばい」が上昇している。『現状』ではまた「減少」も微増。『1年後』では、「横ばい」が5ポイントほど増えた。『2011年時点』では、「減少」が4ポイントほど増えている。

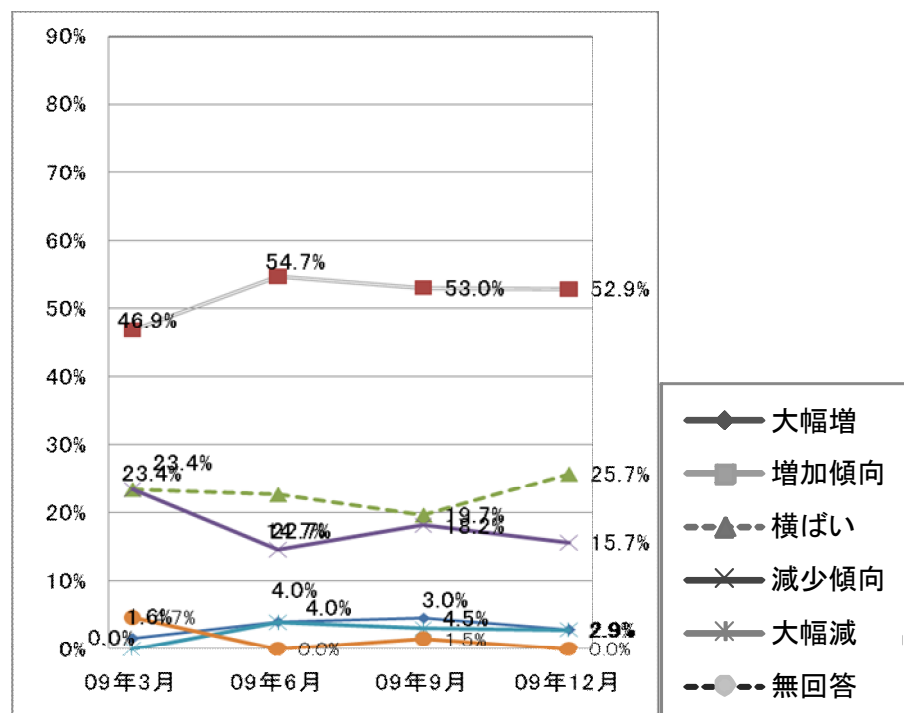
自社収入予測（現在）—前回調査との比較



自社収入予測（1年後）—前回調査との比較



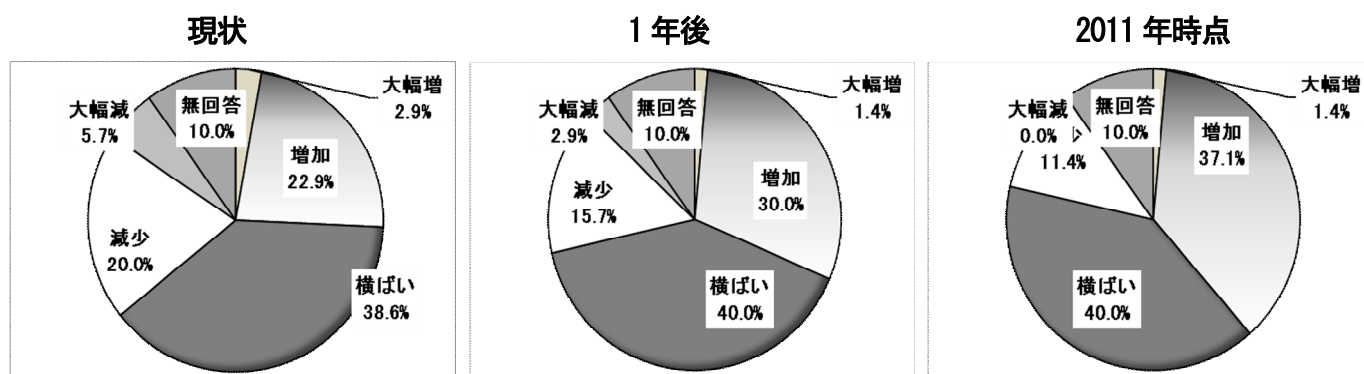
## 自社収入予測（2011 年）—前回調査との比較



## 7. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入の予測では、「横ばい」とみる回答が『現状』(38.6%)、『1年後』(40.0%)、『2011年時点』(40.0%)とも最も多い。

一方で、「増加」と見る事業者は『現状』(22.9%)、『1年後』(30.0%)、『2011年時点』(37.1%)と2011年に向けて増えていき、「減少」は『現状』(20.0%)、『1年後』(15.7%)、『2011年時点』(11.4%)と減っていく。将来に向けて広告収入増への期待が伺える結果となっている。なお無回答も1割あるが、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることに留意されたい。

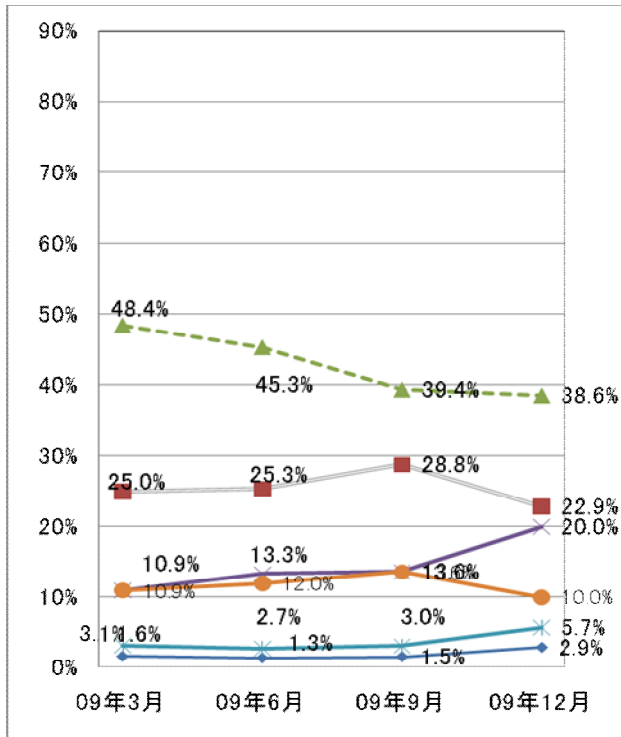


## 8. 広告収入予測の推移

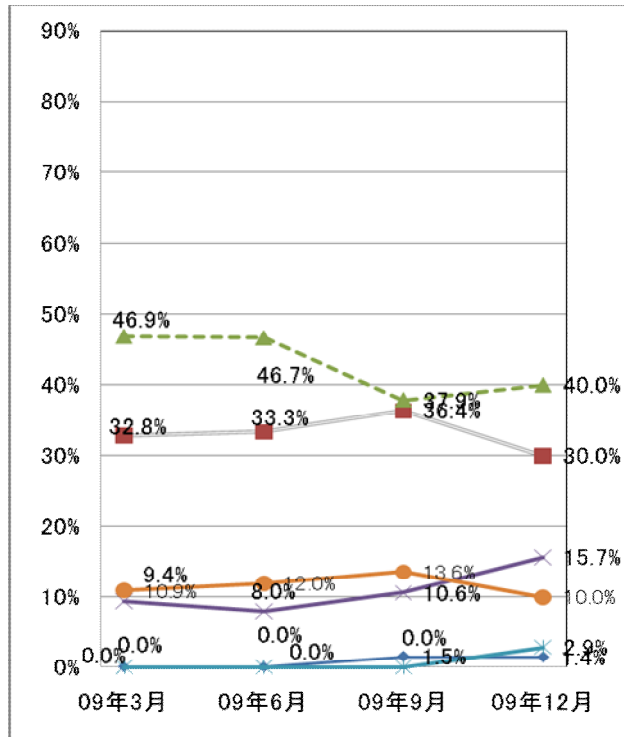
『現状』では、「増加」が5.9ポイント低下、「減少」が6.4ポイント上昇した。『1年後』『2011年時点』でも同様の傾向が見られる。また、『2011年時点』で「横ばい」とみる事業者が11.2ポイントと大幅に上昇した。

2011年に向けて「増加」を期待する回答は依然多いものの、より慎重な見方をしていく傾向がみられる。

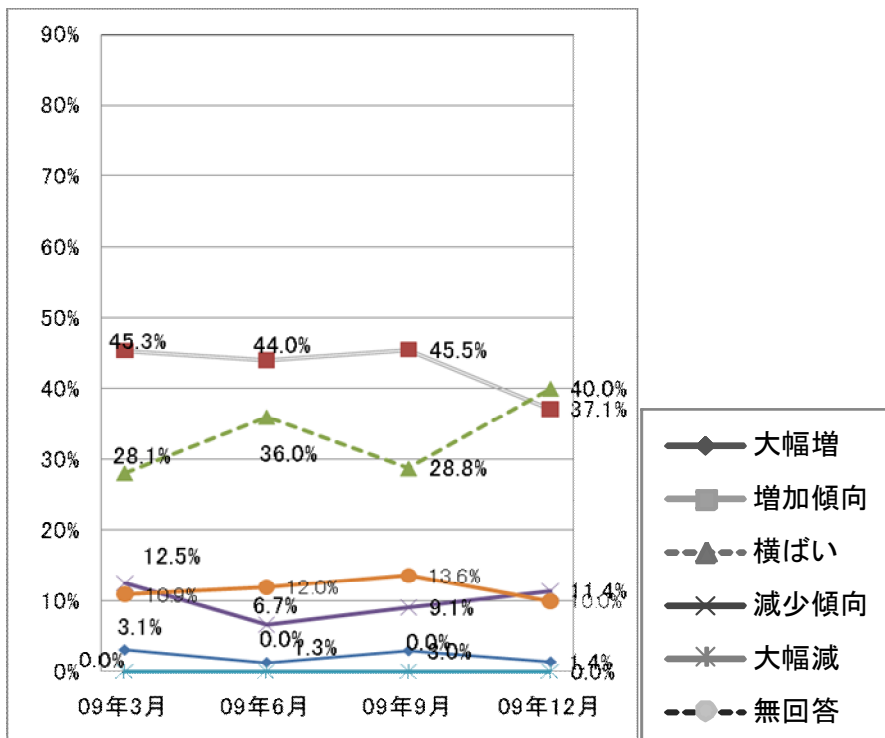
広告収入予測(現状) —前回調査との比較



広告収入予測(1年後) —前回調査との比較

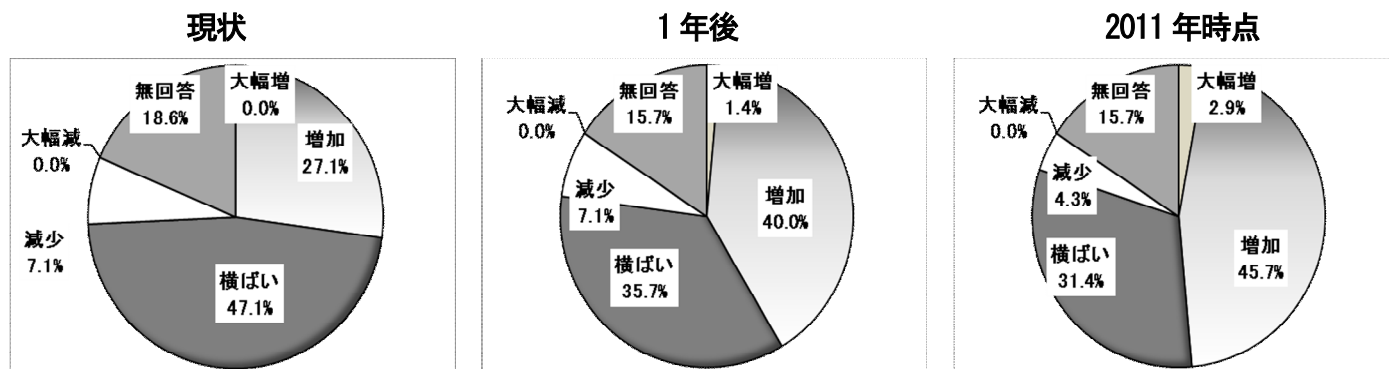


広告収入予測(2011年) —前回調査との比較



## 9. その他事業収入予測

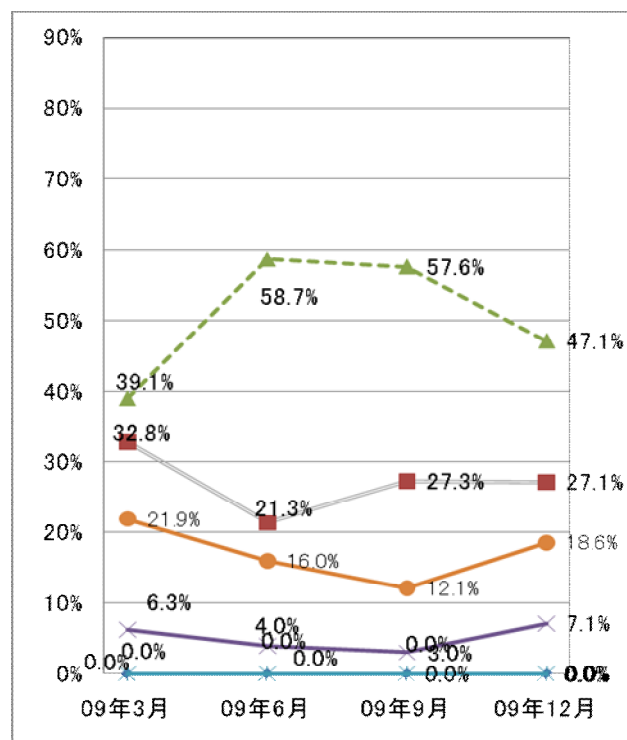
自社チャンネルのその他事業収入では、『現状』では「横ばい」がもっとも多く47.1%、次いで「増加」が27.1%と続く。『1年後』では「増加」が40.0%と最も多くなり、「横ばい」は35.7%に落ちる。「増加傾向」は、『2011年時点』ではさらに増えて45.7%となるが、「横ばい」は31.4%まで減少する。本項目でも「無回答」が多い点に注意が必要である。



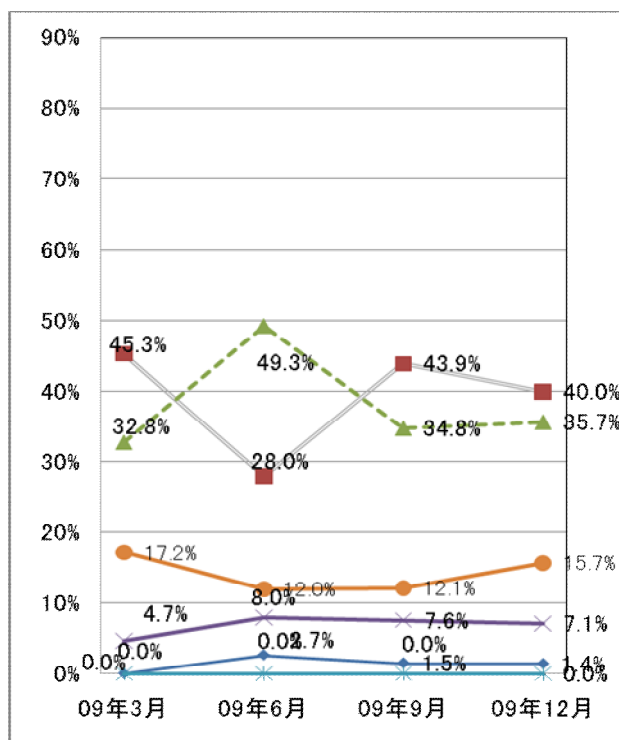
## 10. その他事業収入予測の推移

前回調査に比べて『現状』では「横ばい」のポイントが大幅に増え、入れ替わるように「増加」がポイントを減らした。『1年後』でも同様の傾向がみられる。『2011年時点』については、前回調査と比べて大きな変化は見られなかった。

その他収入予測(現状) — 前回調査との比較



その他収入予測(1年後) — 前回調査との比較



# その他収入予測(2011 年) —前回調査との比較

